

二宮町地域公共交通計画(中期施策素案)についての委員意見と反映について

資料4-2

委員意見		反映
【中期施策の構成について】		
1	町が目指している方向、それに伴う問題点等を地域に投げかけ、日頃から問題意識を共有するような努力と広報に工夫が必要	全町的な問題意識を共有する広報に工夫は必要なため、重点プロジェクトCで取り組みます。 重点プロジェクトDにおいて、日頃から問題意識を共有でき、改善に向けた継続した取り組みが行えるようにしていきます。
2	後期施策に向けて、「今後の交通弱者の増大に対応する最適な交通システム」の実現に向けた具体的な検討を早急に行うことが必要	重点プロジェクトBの実施スケジュールを見直します。
3	コミュニティバス等の利用促進に、私有車両の駅等への乗り入れ、送迎車両の抑制活動・対策もあると良い。	施策《公共交通利用促進策の展開》の⑨モビリティ・マネジメントの内容に「不適切な駐停車などにより公共交通のスムーズな運行が阻害されないよう」と追記します。
【施策名について】 ※意見なし		
【中期施策内容について】		
4	再編するコミュニティバスがスムーズに運行され、地域住民の生活に定着し、利用者増加を目指すことが第一目標にしたらどうか。	一日平均乗車人数の目標100人を達成することを、中期施策期間の目標に位置づけます。
5	交通空白地域とはどの地域を想定しているのか。	町として明確に定義していませんが、目安としてバス停から300m、駅から1km以上離れている地域を中心として、コミュニティバスの運行ルートの見直しを行いました。
6	バス、タクシー事業者、地域住民と協議の上、移動手段がなく困っている高齢者が利用しやすい公共交通とする必要がある。	高齢者などのいわゆる交通弱者に対応するため、重点プロジェクトBで交通システムを研究します。また、地域ごとに交通事情が異なるため、重点プロジェクトDにおいても地域の交通弱者にどのように対応するかを地域で検討していただきます。
【重点プロジェクト内容について】		
7	コミュニティバスだけでは対応できない場面を想定した時間や行き先の自由度の高いワンボックスカー程度で柔軟に運行できるシステムの構築も検討課題ではないか。	柔軟に運行できるシステムの研究を重点プロジェクトB及びDにおいて、検討していきます。
8	地域の買い物や通院など外出困難者支援の必要性は福祉部局においても議論を行っており、重点プロジェクトのDと似ており、国レベルでも「交通施策と福祉施策の連携」が進められていることから、地域の動きに合わせて積極的に検討すればいまの時代に役立つ「新しい公共交通」の形が創り出せると考えている。	外出困難者等のいわゆる交通弱者に対応するため、福祉施策と連携して重点プロジェクトBで交通システムを研究します。また、重点プロジェクトDにおいて、地域の交通をどのようにするか、地域で検討していただきます。

9	利用実績の低下になる項目別理由の追求とその対策の検討 ・人口層別の認識と自家用車の利用、認識度の低さ、認識はあるが利用しない	重点プロジェクトCの実施内容及びスケジュールを見直します。
10	乗り支えが進まない理由は意識、認識だけなのか。	地方の過疎地と比べると公共交通の環境に恵まれ、町の規模も適度な大きさであることから、移動手段を選択できる環境にあるため、今は不便に感じていない方が多いと考えています。そのため、5年、10年先に予測される公共交通の縮小の問題意識の啓発から乗り支える意識醸成につなげる必要があります。

その他

委員意見		回答
1	重点プロジェクトD（1）実施方針の5行目の統一的とはどのような意味なのか。	コミュニティバスやデマンドタクシーは路線バスの補完や交通空白・不便地域を中心とした運行など、全町的な一定のルールのもと、地域の要望等を踏まえ運行ルートやその地域に導入を行っています。その一定のルールを「統一的」と表現しています。 今後、公共交通の縮小が予測されている中、これまでと同様に要望等を運行に反映することは、地域公共交通を拡大させるだけで、持続可能な地域公共交通とすることが困難と考えます。生活の足を確保するうえでその地域に適した移動手段を公共交通の維持、利用ニーズ、福祉の視点等から総合的に検討したうえで、交通施策や福祉施策又は新たな施策を選択することが、交通事業者・町・住民の3者にとって望ましい姿と考えています。